

ネット社会という船に乗って

「不安」と「恐怖」、どちらの状態を人は好むのか？

文 佐渡島庸平

text by Yohsei Sadoshima

「不安」と「恐怖」、どちらの状態を人は好むのか？
 多くの人は、恐怖が嫌に決まっていると答えるか
 と思う。しかし、現実には逆だ。不安な状態を回避し
 ようとする。

不安とは、精神医学用語では、対象のない恐れ
 の感情とされている。東日本大震災の後、また地震が
 来るのではないかと、多くの人は不安を覚えた。ま
 た、原発の放射能にも不安を覚えた。不安状態に多
 くの人は長期間耐えることができない。それであれ
 ば、いっそ恐怖の方がマシに感じてしまう。恐怖と
 は、対象が明確な場合だ。東日本大震災の時は、東
 電の原発の管理体制という明確な恐怖の対象が生
 まれ、東電の経営陣の責任が問われた。

今回、コロナで人々は、長期的な不安状態に置か
 れている。コロナというウイルス自体も正体がわか
 らなくて不安。自分が、いつ、どこでかかってしま
 うか分からなくて不安。

不安な時に人がすることは、恐怖の対象を見つけ
 ること。そして、それを攻撃していると、人は不安
 な状態を回避できる。

今、アメリカで起きている「Black Live
 es Matter」もアメリカの社会的な構造で

説明もできるだろうが、僕は不安と恐怖の関係で捉
 えることができると思う。

白人には「差別」が戦う対象になるし、一部の白
 人には「暴動」が戦う対象になる。さらに一部の白
 人には「差別の是正」が戦う対象になる。誰もが戦
 う相手を見つけ、それに心が奪われていると、コロ
 ナへの不安は意識の外へ行く。

ペストの後に「魔女狩り」が起きた。魔女狩りは、
 過去のもので、技術が進み、科学的になると関係な
 いと思っていた。しかし、どれだけ技術が進もうと
 も人の心は進化しない。不安を解消するために、恐
 怖を感じ、恐怖の対象と戦おうとする。「魔女」が
 昔よりも複雑な形を取るようになっていただけだ。
 「魔女」と戦う人たちは、不安から逃げるために恐
 怖と戦っていると気づくことはない。「正義」のた
 めに戦っていると感じている。

アフターコロナで何が変わるのか？生活様式
 の変化などが話題になるが、心の変化の方が大きいだ
 ろう。恐怖の対象を探し続けるために、社会が不自
 然に歪む可能性があると感じている。



Profile
 株式会社コルク 代表取締役
 2002年講談社入社。週刊モーニング編集部にて、「ドラゴン桜」(三田紀房)、「働きマン」
 (安野モヨコ)、「宇宙兄弟」(小山由哉)などの編集を担当する。2012年講談社退社後、
 クリエイターのエージェント会社、コルクを創業。著名作家陣とエージェント契約を結び、
 作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形
 の先にあるインターネット時代のエンターテインメントのモデル構築を目指している。